

見学会報告  
「地球温暖化防止の鍵となる最新発電技術」～ 中国地方における  
再生可能エネルギー・原子力発電への取り組み ～

部門企画委員会 高橋 志郎（日立）

梅雨時期の快晴のなか、2010年7月8日（木）～9日（金）にわたって、バイオスタウン真庭及び建設中の島根原子力発電所3号機を訪問した。若手からベテランまで、大学、メーカー、電力会社、研究所等の様々な専門分野で活躍する22名の参加者を集め、見学会を開催した。

第一日目は、岡山空港及びJR岡山駅で集合した後に、チャーターバスでバイオスタウン真庭に向かった。真庭市は岡山県北部で中国山地のほぼ中央に位置し、蒜山高原等の山々に囲まれた自然豊かな市である。最初に集成材の製造販売を行っている銘建工業（株）の木質バイオマス事業を見学した。銘建工業（株）では、木材加工で生じる木屑を木質ペレット燃料に加工して、ボイラを用いた自家発電設備に利用している。発電された電力は、グリーン電力として認定され、売電されている。木質燃料の生成から発電までを手掛けており、持続可能な未来のエネルギー産業の在り方を考える機会になった。次に、真庭バイオマス集積基地を訪問した。林地残材や製材所で発生する樹皮を利活用することを目的として、平成20年度に建設されたものである。この基地は全国的に見ても先進的な取り組みであり、木質燃料の安定供給に向けた拠点となっている。廃材が次々に機械で木質燃料としてのチップに加工されていく様相は見事であった。見学会終了後、中国山地を横断し、島根県松江市に移動した。宿泊先のホテル近くの居酒屋で、恒例の懇親会を開催し、参加者の親睦を深めることができた。原口部門長による手品の披露もあり、楽しいひと時をすごせた。

第二日目は、美しい日本海と緑に囲まれた島根原子力発電所3号機を見学した。中国電力（株）の島根原子力発電所3号機は定格電気出力137.3万kWの最新の改良型沸騰水型原子炉である。現在、建設中の原子炉であり、商業運転後には見ることもできない場所を見学できる絶好の機会であった。原子力発電所の全容を眺めた後、迷路のような原子炉建屋の中を、原子炉再循環ポンプ等の大型機器を見ながら、原子炉の上部から下部まで移動し、原子炉の大きさを体感できた。その後、タービン建屋に移動して、蒸気タービンの羽根等を間近に観察した。最後に、最新の中央制御盤を忠実に模擬したシミュレータ室を見学し、原子炉異常事象発生時の状況を再現する等、貴重な体験をした。発電所を離れた後、出雲大社に立ち寄り、中国地方の歴史・文化を感じ、出雲空港をへて米子空港に向かった。

今回の見学会では、銘建工業（株）、中国電力（株）及びバイオスタウン真庭の方々には、丁寧かつ熱心なご説明をいただきました。最後に、この場を借りてお礼申し上げます。



建設中の島根原子力発電所3号機をバックに集合写真